

八王子の民俗誌 8

日本民俗学会会員 佐藤 広

秋山国三郎の人形座の意義



▲大正初期頃の吉田冠十郎（車人形）改良車大人形のピラ
小澤愛園著の『世界各国の人形劇』
（慶應出版社 昭和18年発行）所載

ると、若松や薩摩を名乗って説経節を語るもの、義太夫節を語るもの、写し絵を行うもの、一人遣いの車人形や義太夫で三人遣いの人形芝居を行うものなど、幕末から明治期の豊かな芸能の姿が偲ばれる。

本誌のコラムを担当されていた沼謙吉氏は、「八王子車人形と秋山国三郎」（八王子市川口郷土史研究会『郷土史』22号）で、自由民権運動や北村透谷との親交で著名な秋山国三郎が、義太夫の師匠で三人遣いの人形芝居の一座をもっていたこと、その一座が明治32年（1899）に日野の宝泉寺で公演したが、翌年には公演不可能になっていたと思われること、国三郎旧蔵の人形用具一式が、現在の西川古柳座に伝えられていることなどを記している。

さらに、川口の人形座の状況は、秋山一氏の『故瀨沼半十郎談話筆記』（色川大吉『新編明治精神史』）に、国三郎の義太夫の弟子は川口、恩方、加住、元八王子、八王子町などの近郷に百余名いて、人形技を紋十郎や十九郎（吉田東九郎）から学んだと述べ、川口の人形遣いの名も挙げて、「車人形遣い説経節語り名簿」（久米井亮江『武蔵車人形』）に、上川の吉田文十郎（渡辺伊太郎）と東九郎門下として戸沢の吉田梅三郎（奥住茂三郎）の名がある。明治42年（1909）の「若松駒治太夫襲名披露案内」（久保喜一『写し絵日記』）などの資料をみると、若松や薩摩を名乗って説経節を語るもの、義太夫節を語るもの、写し絵を行うもの、一人遣いの車人形や義太夫で三人遣いの人形芝居を行うものなど、幕末から明治期の豊かな芸能の姿が偲ばれる。

「恩方村操人形仮設観物興行届」によれば、下恩方で渡辺伊太郎が秋山孝太郎と義太夫で車人形を演じている。国三郎が育てた人形遣いたちが、一座解散後も活躍していた。

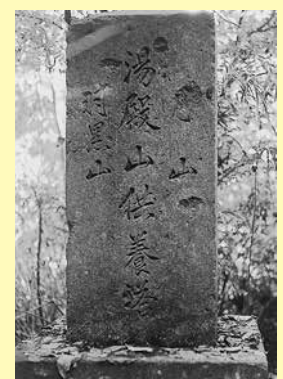
車人形にとって画期となった大正13年（1924）5月22日、大横町の平音次郎宅での公演は、三田村鳶魚の案内で坪内逍遙と河竹繁俊らが、小門の稲葉座の車人形を鑑賞する（『三田村鳶魚全集』廿六巻）。そのときの7名の演者のなかに吉田梅三郎がいる。こうしてみると、川口の三人遣いの人形遣いたちが車人形に転じ、有力な存在となっている。明治期に二宮（あきる野市）から八王子周辺の人形遣いが吉田を名乗っているのは、江戸系三人遣いの東九郎や冠十郎の影響と考えられる。その元をつくったのが秋山国三郎ではないだろうか。貴重な人形用具が今に伝えられただけでなく、川口で育まれた人形の技も歴史的に重要な役割を担っていたと思われる。

八王子の原風景 8

元・八王子市市史編さん研究協力員 馬場喜信

七国峠と出羽三山供養塔

八王子みなみ野の南端に東西に横たわる多摩丘陵。その稜線を南北に越える峠路は幾筋もあるが、古くから歩きつがれてきたのが七国峠である。今、この七国の名が、みなみ野とともに、この広大な新市街地をほぼ二分する地名となっていることは先につれた。



▲七国峠の出羽三山供養塔

七国峠の名の由来については『新編武蔵国風土記稿』が、「武蔵、相模、伊豆、下野、安房、駿河、常陸等の国々見ゆるによりて、この名あるべし」と記している。実地からの眺望に当てはめれば、武州御岳、相模大山、伊豆天城山、下野日光山、房州鋸山、駿河富士、常陸筑波山となるだろう。峠は標高200mほどの稜線の凹みで、鬱蒼とした樹林に覆われていて実見はまったく望めないが、よく晴れた冬の朝など、そこから200mほど西に登った最高点（223・2m）に立てば、葉の落ちつくした樹々の梢を透かして、これらの山々が姿を見せてくれることだろう。天城山はちょっと見分けるのがむずかしいけれども、峠の凹みにもどうだろう。峠路と尾根道とが分岐する地点に小さな塚のような高まりがあり、そこにひっそりと忘れられたように「出羽三山供養塔」が立っていた（写真。1975年11月8日撮影）。正面中央に湯殿山、右に月山、左に羽黒山と刻まれている。薄暗い木漏れ日でいっそう静かな立ち姿。碑の右側面には「正保十年（1653年）十一月一日立」とあった。なぜここに出羽三山供養塔が？

この疑問とともに、以前にこれとまったく同型の碑を見たことを思いだした。湯殿川の本流をその源まで訪ねようと、今は拓殖大学キャンパスとなっている谷を遊行したときのこと。もう少しで谷が尽きようとするところにこの「出羽三山供養塔」が半ば埋もれるように立っていた。フィルム切れたのが写真はない。ここまで細々とつづいてきた踏み跡も消え、稜線への登高もはばまれた。戻るほかなかった。湯殿川源流地点と、湯殿川支流の兵衛川水源の峠に、江戸初期に建立されていた二基の「出羽三山供養塔」。正面の文字は大きく湯殿山。八王子のこの地へ出羽三山への信仰を持ち来ったのは誰だったのか。鎌倉時代初めに横山氏が滅び、その後には補された大江氏。その系統が出羽の長井にも所領を持ち、長井氏を称した。長井氏が里帰りし、この地を拠点として、あの廣園寺・高乗寺という二大寺院も創建した。その長井氏の後裔の人をおいて他にはいない。

七国峠から南へ下る道はまっすぐに駆け下り、武相国境の境川の岸辺へと出ている。明るい光が眩しい。

私の本はこうして生まれた 其の四十二

『ロックカフェという生き方』 — 『アルカディア』の40年 — 高木純 著

西八王子駅からほど近いロックカフェ&バー「アルカディア」。開店40周年を機に、マスターの高木純さんが記念出版を決意。常連さんからの心強い応援やクラウドファンディングでの資金集めにより完成した『ロックカフェという生き方』は、アルカディアの歩みだけでなく、対談、詩論、ロックアルバム100選など、多様性に富む珠玉のアンソロジーとなりました。高木さんのロックへの情熱が溢れる本書を肴に「アルカディア」へ行ってみよう！

わたしが学生だった頃、先輩

と申しかない。

した。「あれはどういうこと

勧められる生き方ではない。

輩にどうにも味のある男がいた。「卒業したらどう生きてゆくんですか」と訊いたことがある。彼の答えは「面白おかしく生きる」だった。これは中々に含蓄のある考え方だ。面白いコトやモノは人それぞれだし、時代や文化状況によっても変わってゆく。何よりも人は経済的に自立しなければならぬ。そのうえで面白おかしくでなければならぬ。「でなければならぬ

さて、八王子で40年、ロックカフェを続けてきた。70年代前半、ロック喫茶が各地にあつて、その一角を担いたいと強く思った。そうして始めたわたしの店「アルカディア」で、面白いことをやりた

だったのか？」という知りた

最後に余談を。校正の過程で国語能力が試されることがあつた。例えば「加担」という言葉である。元来「荷担」と表記されていたと思うが、60年代末頃より学生運動の盛り上がりの中で「戦争に加担」のような表記が出現してきて、現在はこちらの方が一般的であるらしい。それに従うことにした。旧世代に属しているな、と思つたものである。

「でなければならぬ」は面白くない考えである。窮屈だからである。「面白おかしく生きる」は困難な思想

間である。日記をつけないので事実関係を発掘するだけでも大変だったが、「本を作る」という目標がそれを後押し

本の中身はできてきたのだが、タイトルが決められなかった。結局『ロックカフェという生き方』に落ち着いたのは、40周年を迎えた2018年の秋頃だった。「生き方」などという自己啓発本のようなコトバを選ぶべきでなかったという気もするが、「自分の職場と遊び場は自分で作る」という気持ちで生きてきたのは確かなので、これがベストだと思つている。決して人に

『ロックカフェという生き方』 定価2000円＋税 揺籃社刊 A5判・184P ※本書をお求めの際は、お近くの書店か当該編集部までどうぞ。

40年というのは短くない時間である。日記をつけないのも大変だったが、「本を作る」という目標がそれを後押し

た。自分の職場と遊び場は自分で作る」という気持ちで生きてきたのは確かなので、これがベストだと思つている。決して人に

たという気もするが、「自分の職場と遊び場は自分で作る」という気持ちで生きてきたのは確かなので、これがベストだと思つている。決して人に

る。(著者記)



ARCADIA (アルカディア)
〒193-0835 八王子市千人町3-18-9
TEL・FAX 042-665-4905
URL <http://www.arcadia-cafe.jp/>

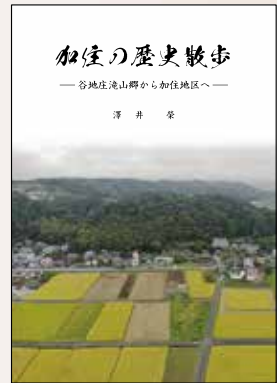
※このコーナーで紹介する自費出版本を募集しています。紹介してほしい本がありましたら、ご一報を。

誰にとっても父と母との思い出は、自分史の核心ともいえる大事なエピソードといえるでしょう。本書は、日野市の小島善太郎記念館（百草画荘）で、自身の父の語り部として活動している小島敦子さんによる、11編のエッセイを収録しています。著名な洋画家、小島善太郎氏の次女として知られる敦子さんが描くのは、ただの思い出話ではありません。父が娘に垣間見せた画家としての矜持やクソッと笑えるような親子のエピソードまで、小島善太郎氏の絵画論としても、少し変わった家族論としても魅力の詰まった1冊です。



父と母、そして娘
小島敦子・著
★私家版
★A5判・28ページ
※本書は私家版です。詳細は当誌編集部まで。著者をご紹介します。

本書は市内加住地区に残る歴史・民俗資料をまとめた資料集として、大石氏、左入城、天然理心流などの、加住の豊かな歴史的事象を編年順に紹介しています。現在の高月町に生まれた著者が長年にわたって手がけた研究の集大成であり、地域の歴史をたった1人で描ききった、まさに力作です。最後に、著者は特に若い読者・住民に向けて加住の歴史を伝えていく橋渡し役を担いたいという思いを記しています。地域に備わっている魅力をいかに活かしていくのか、それを考えるきっかけとなることでしょう。



加住の歴史散歩
——谷地庄滝山郷から加住地区へ——
澤井 肇
★私家版
★A4判・128ページ
※本書は私家版です。詳細は当誌編集部まで。著者は故人のため、関係者をご紹介します。

わがまち八王子探訪シリーズ「横山」(仮)

次号
予告

次号で取り上げるのは「横山」地域。長房団地や館ヶ丘団地といった住宅地もあれば、万葉公園などの市民の憩いの場や全国的に有名な武蔵陵もあります。そもそも市内でよく見かける「横山」の意味とは？ 歴史や由来なども紐解きながら、南北に広がる横山地域の魅力をご紹介します。情報募集中！

第43号（清風号）は
9月1日発行予定



広告募集中！

「はちとび」は10,000部を発行、右記の場所に配布いたします。八王子市民にアピールしたい商品やサービスの広告にピッタリ。是非、協賛ください。

提携店募集中！

お客さんとのコミュニケーションツールにしたり、待ち時間の合間に雑誌感覚で読んでもらったりと、利用方法はさまざま。「はちとび」を新サービスとしてご活用ください。

お問い合わせはこちら

揺籃社（清水工房内）
はちとび編集部

TEL (620) 2615
FAX (620) 2616
E-mail info@simizukobo.com

「はちとび」の置いてあるところ

公共施設

八王子観光コンベンション協会
八王子商工会議所
八王子市郷土資料館
八王子市中央図書館
八王子市川口図書館
八王子市南大沢図書館
八王子市生涯学習センター図書館
八王子市絹の道資料館
八王子市役所産業振興部
八王子市役所スポーツ振興課
道の駅「八王子滝山」
サイエンスドーム八王子
八王子クリエイティブホール
八王子市学園都市センター
八王子市民活動支援センター
八王子市子ども家庭支援センター
八王子市芸術文化会館いちょうホール
八王子市教育センター
八王子市南大沢事務所
八王子市南大沢文化会館
八王子市生涯学習センター 南大沢分室
八王子セミナーハウス
長池公園自然館
高尾山599ミュージアム
タヤけ小やけふれあいの里
市内各市民センター 等

お店・企業・学校

アート八王子
アクサ生命
街赤坂商店
御菓子司 旭苑
吾妻寿し
アメニティーライフ八王子
街荒物加島屋
café de la poste
cafe rin
金子商店
ギャラリー・スペースことのは
京晴楼
くまざわ書店
くまざわ書店西八王子店
株クラブS保険サービス
グループホームびおら
敬愛保育園
啓文堂高尾店
工学院大学
小谷野紙店
街埼玉屋本店
和食 坂福
坂本クリニック・坂本医院
J A八王子ふれあい市場
シミズパーク24
首都大学東京
Tea&Pasta July July
スマイルこどもクリニック
株スリーポンド
せいがの森保育園
セブンイレブン八王子北口店
創価大学
高尾の森わくわくビレッジ
拓殖大学
そば・うどん 玉川亭
たましん散田店
多摩美術大学
中央大学
東京家政学院大学
東京工科大学
東京工業高等専門学校
東京純心大学
東京造形大学
東京薬科大学
とみりえ
中野屋商店
街中村自動車
株日住
ねずみのこと
ハーモニーネット
はちねこ！カフェ
八王子エルシィ

八王子学園八王子高等学校
八王子自動車学校
八王子市役所売店「はっち」
八王子消化器病院
株富士屋
ふもとや
Coffee Bricks
株フロリストシマダ
ベネック
法政大学
まつおか書房
松姫本店
街峰尾豆腐店
みやま大樹の苑
株山六
有隣堂 CELEO 八王子店
ヨセタニ写植 等

その他団体など

サイバーシルクロード八王子
センター八王子
八王子法人会
八王子市医師会
八王子市職員等事業本部
八王子自治研究センター
八王子センター元気
八王子いちょう祭り祭典委員会
墨のアトリエ墨童舎 等

八王子自治研究センター
紀要
創刊号



2019年4月
一般社団法人八王子自治研究センター

八王子自治研究センターは、地方自治の発展、自治の確立に向けた調査研究、情報提供を本旨とする、地域のシンクタンクを目指しています。本年より、地域社会のさまざまな課題を論じていく場として、年1回紀要を発行してまいります。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

2種類の報告書も発行しました。ご希望の方は下記まで。



お問い合わせ 八王子自治研究センター

住所：八王子市元本郷町3-17-15 浜中ビル2階
電話：042 (626) 7714

小島善太郎「百草画荘」

日野市立小島善太郎記念館



日本洋画史に多大な功績を残した小島善太郎が晩年に過ごした「百草画荘」は、今年開館6周年を迎えました。



画伯生前の雰囲気や可能な限り残しつつ、晩年を中心とした作品約50点やさまざまな遺品などを展示します。

- 開館日：毎週土・日曜日、祝日
- 開館時間：10時～17時 ※冬季(10～2月)は16時まで
- 観覧料：大人300円、小人(小・中学生)100円

✿ 小島善太郎の次女、敦子さんによるエッセイ集『父と母、そして娘』を刊行しました ✿

アクセス

- (1)京王線百草園駅下車徒歩20分
- (2)京王バス三沢台路線(高幡不動駅～聖蹟桜ヶ丘駅)「南百草」「百草園住宅東」バス停から徒歩5分
- (3)タクシー…京王線聖蹟桜ヶ丘駅または高幡不動駅から10分 ※駐車場あり(駐車台数には限りがあります。なるべく公共交通機関でお越しください。)

お問い合わせ

042-591-7775 百草画荘 ※開館日時のみ
042-585-1111 日野市役所文化スポーツ課 芸術文化係

没後400年

おおくぼながやす
大久保長安

大久保長安とは…

戦国時代の終わりに八王子のまちをつくり、関ヶ原後は全国各地で金山銀山を開発、現在の八王子市小門町に陣屋を構えて浅川の治水対策などに着手した、天下の総代官です。徳川家康に天下を取らせ、その治世を支えたともいわれています。2013年は没後400年でした。

八王子のまちづくりに大いに貢献した長安を顕彰し、後世に伝えていこうと、市民有志による「大久保長安の会」が結成されました。これまでに、「大久保長安400年記念シンポジウム」や「400年記念講演会」、市内のゆかりの地を巡る「まち歩き」、長安を活かしたまちづくりを学生たちと考える「ワークショップ」などを開催してきました。今後も随時、大久保長安に関連したイベントを行っていく予定です。ぜひご参加いただき、長安を通じてふるさと八王子をもっともっと好きになっていただければと思います。

大久保長安の会

〒192-0082 八王子市東町13-6 大久保長安の会 事務局
Tel: 090-1656-6800(おまた) Mail: tk-shoes@vega.ocn.ne.jp
HP: <http://ookubo-nagayasu.com/>

毎月 2回 金曜日仕上げ

カラーハガキ

データ作成から印刷まで 小部数にも対応!

お店のご案内やDM

オリジナルポストカード

絵画展・写真展などの案内

まずは電話で
ご相談を!!



詳細は 清水工房 カラーハガキ

検索

お問い合わせ

株式会社 清水工房 TEL.042-620-2626



1990年当時



現在

●1969年清水工房創業

●1984年揺籃社創設

●2006年現在地に移転

●2019年創業50周年

清水工房 揺籃社創設35周年 創業50周年感謝展

弊社は1969年に創業し、2019年に50周年を迎えました。これを記念し、7月12日(金)・13日(土)の両日、弊社50年のあゆみを振り返る「清水工房創業50周年感謝展」を開催いたします。また、12月に向け八王子の歴史を辿る「市民歴史講座」を開講中です(P10下欄参照)。

多くの皆様方の展示会へのご来場、歴史講座へのご参加を、スタッフ一同、心よりお待ちしております。

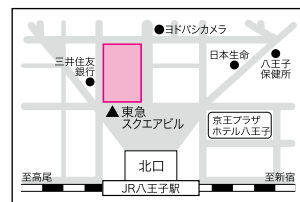
2019年 **12**日(金) 10:00~18:00
7月 **13**日(土) 10:00~16:00

両日とも会社業務を休業させていただきます

八王子市学園都市センター11F

ギャラリーホール

※JR八王子駅北口徒歩2分
(東急スクエアビル内)



主な展示内容

- 50年のあゆみパネル
- 自費出版物
- 揺籃社販売書籍
- 八王子今昔パネル
- 自費出版文化賞受賞作品
- はちとぴコーナー
- パンフレットコーナー

など

株式会社 **清水工房**
出版事業部 揺籃社

〒192-0056 東京都八王子市追分町10-4-101
TEL. 042-620-2626 FAX. 042-620-2616
<http://www.simizukobo.com/>

